



J. FRONT RETAILING

2023年9月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
 TEL 03-6865-7621

2023年8月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	8月度	上期累計	8月度	上期累計
百貨店事業	14.0	10.6	18.6	14.4
SC事業	2.0	6.2	24.1	17.3
デベロッパー事業	47.2	29.3	50.7	32.3
決済・金融事業	33.7	6.6	33.7	6.6
その他	▲10.4	2.0	▲11.2	1.8
連結合計	14.0	13.3	20.7	16.4

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 8月度の売上高は、中旬の台風による関西7店舗と名古屋店臨時休業のマイナス影響があったものの、化粧品、ラグジュアリーブランドが大きく売上を伸ばし、訪日外国人売上が好調を継続していることに加え、前年同時期に感染者数が増加していたことによる反動増もあり、大丸松坂屋百貨店合計では対前年17.8%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同18.6%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年285.7%増(客数同1749.9%増、客単価▲79.1%減)となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年8.2%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の9月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、ラグジュアリーブランド、化粧品、宝飾品の好調持続、訪日外国人売上の大幅な増加などにより、14日までの累計で対前年18.7%増(対2019年度▲8.7%減、対2018年度6.4%増)、国内売上高は同7.6%増(対2019年度▲11.8%減、対2018年度2.3%増)で推移している。免税売上高は対前年340.1%増(対2019年度21.5%増、対2018年度47.5%増)で推移している。

2) SC事業

- 8月度のテナント取扱高は、夏季休暇によるキャラクター雑貨フロアの需要の高まりや各店舗独自イベント開催による動員増加、訪日外国人売上の増加などの影響により、全店舗計(既存店)で対前年31.4%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J.フロント建装が、ホテル内装工事の好調継続により増収となり、パルコスペースシステムズも大幅増収となったことから、全体でも大幅増収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、百貨店の売上増を主因とする加盟店手数料、割賦販売手数料の増加により、増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、電子部品は復調するも自動車部品、リテールビジネスの不調により減収となり、全体でも減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
 IR推進担当 TEL 03-6865-7621
 グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2023年8月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	8月度		上期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	40.2	72.3	34.9	63.1
大丸 梅田店	34.1	49.1	21.2	35.9
大丸 東京店	38.3	37.9	32.3	37.2
大丸 京都店	19.5	10.4	15.3	9.1
大丸 神戸店	12.3	17.0	9.3	11.3
大丸 須磨店	1.6	▲0.6	1.1	▲1.3
大丸 芦屋店	3.2	▲0.1	2.0	▲0.1
大丸 札幌店	21.4	30.6	16.7	21.2
大丸 下関店	▲0.4	5.0	▲4.7	▲3.3
松坂屋 名古屋店	11.7	23.1	9.6	11.7
松坂屋 上野店	15.3	31.1	7.0	24.8
松坂屋 静岡店	5.0	9.0	3.2	2.6
松坂屋 高槻店	3.0	11.1	▲1.7	4.4
店 計	21.5	30.7	16.6	23.7
法人・本社等	▲35.7	-	▲22.3	-
大丸松坂屋百貨店合計	17.8	30.7	14.5	23.7
うち商品売上高	17.8	-	14.6	-
うち不動産賃貸収入	18.1	-	12.8	-
博多大丸	31.1	27.6	16.4	19.1
高知大丸	5.7	28.9	▲0.5	▲0.0
百貨店事業合計	18.6	30.5	14.4	23.2

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	8月度	上期累計
紳士服・洋品	▲3.2	▲2.7
婦人服・洋品	21.8	18.4
子供服・洋品	17.8	11.9
その他の衣料品	▲0.9	4.6
衣料品計	18.9	15.3
身 回 品	23.5	14.5
化粧品	43.5	30.8
美術・宝飾・貴金属	16.2	15.5
その他雑貨	14.3	21.4
雑 貨 計	26.4	22.0
家具	0.1	6.6
家電	▲31.7	5.0
その他の家庭用品	13.5	4.2
家庭用品計	9.2	4.8
生 鮮	5.6	2.8
菓 子	19.9	15.4
惣 菜	10.5	9.2
その他食料品	2.3	2.4
食料品計	11.7	8.9
食堂・喫茶	42.0	31.4
サービス	44.4	20.7
そ の 他	▲25.5	▲6.5
合 計	17.8	14.6

3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品では、ラグジュアリーブランドが好調を持続したほか、猛暑の影響を受けパラソル、サングラスなどが売上を伸ばした。また、秋物の立ち上がりとして、ニット、ブラウス、カットソーなどにも動きが出ている。
- ・ 紳士服・洋品では、キャラクターブランドを中心に売上を伸ばしたが、品番移管の影響により対前年マイナスとなった。
- ・ 身回品では、通勤スタイルとして定着してきたスニーカーが好調であったほか、かばん旅行用品も売上を伸ばした。
- ・ 雑貨では、インバウンド需要に加え、UV関連製品の好調などにより、化粧品が大幅な売上増となった。
- ・ 食料品では、夏休み・お盆による帰省みやげ、旅行みやげ需要により、菓子や惣菜が好調に推移した。

2023年8月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	8月度	上期累計
札幌PARCO	71.5	43.0
仙台PARCO	13.9	16.9
新所沢PARCO	▲6.5	▲8.2
浦和PARCO	16.9	10.8
池袋PARCO	42.4	24.6
PARCO_ya上野	30.0	30.4
ひばりが丘PARCO	13.7	9.0
吉祥寺PARCO	39.9	26.6
渋谷PARCO	83.2	63.8
錦糸町PARCO	23.5	23.1
調布PARCO	12.1	9.5
松本PARCO	10.6	4.3
静岡PARCO	▲4.9	▲3.8
名古屋PARCO	24.6	11.2
心齋橋PARCO	66.8	56.9
広島PARCO	14.2	8.6
福岡PARCO	34.2	29.5
全店計	26.6	18.2
既存店計	31.4	22.9

※注) 1. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 既存店計には、津田沼PARCOの前年実績値を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	8月度	上期累計
衣料品	18.6	12.2
身回品	26.4	19.1
雑貨	33.2	25.9
食品	▲1.5	▲2.4
飲食	34.0	27.7
その他	46.5	25.8
合計	26.6	18.2

3. 営業概況

- ・ 8月度のテナント取扱高は、夏季休暇によるキャラクター雑貨フロアの需要の高まりや各店舗独自イベント開催による動員増加、訪日外国人売上の増加などの影響により、全店舗計（既存店）で対前年31.4%増となった。
- ・ アイテム別取扱高では、多くの店舗で大きく伸長した飲食が対前年34.0%増、集客力が高いアニメ・ゲームコンテンツを含む雑貨が同33.2%増となった。